

夜の就寝中透析 働く患者に好評

腎不全患者約32万人が週に3回、1回につき3〜5時間受けている人工透析。拘束時間が長く、仕事を辞めざるを得なくなるなど生活の質（QOL）の低下が指摘されている。そうした中、夜寝ている間に受けられる「オーバーナイト透析」を実施するクリニックが、福岡市に開設されたII写真。

仕事への影響が少ない上、8時間かけてゆっくりと血液を浄化するため体への負担が少なく、患者に好評という。

佐賀県伊万里市で前田病院を運営する医療法人「幸善会」（前田利朗理事長）が6月、福岡市・天神のオフィスビル1階に開いた。日中は通常の内科で、オーバーナイト透析は月、水、金曜日に実施。現在、糖尿病性腎症や慢性腎炎などを患う30〜50代の8人が受けており、全員が日中働いている。

福岡・天神に専門クリニック開設



仕事を終えていったん帰宅して夕食を取り、入浴後に来院したり、残業後に直接来院したりして午後10時ごろに透析を始め、翌日午前6時ごろに終了する。間仕切りで個室のようにするため熟睡でき、通常の2倍近い8時間をかけて血液中の毒素を取り除くため、急激な血圧低下が少なく、ふらつきな

ども避けられるという。

遺伝性疾患の多発性嚢胞腎の会社員男性（31）II福岡市IIは以前、別の病院で日中に5時間透析を受けていたが、オーバーナイト透析を始めてから顔色が良くなり、むくみや治療後の倦怠感がなくなっただけという。「前は早退ばかりで、職場で肩身が狭かった。今はきちんと働けて、体も楽でありがたい」と話す。

院長を務める前田理事長によると、針は腕に頑丈に固定するため、寝相が悪くても抜けることはない。万一抜けてもエアフォームが鳴り、看護師と技師、当直医がすぐ対応するという。

一方、医療機関に支払われる診療報酬は日中も深夜も同じで、患者の自己負担額も同じ。このため人件費がよりかかるオーバーナイト透析を行う医療機関は少なく、全国では20カ所余り、九州では北九州市など数カ所にとどまる。「社会的理解は進んでいるとはいえ、透析で職を失う人は今も少なくない。働き続けることは経済的自立や生きがいにもつながり、応援したい」と前田院長は話している。

（下崎千加）

・ご意見、感想、情報をお寄せください。「医見異見」への投稿も募集します。紙上匿名はできますが、氏名、連絡先を明記してください。

・ご意見などは、メール、ファクスで受け付けます。郵送の場合は〒810-8721（住所不要）、西日本新聞生活特報部へ。